

野菜花き 9月上旬巡回調査結果の概要について

【東北信】 巡回日 9月8日、9日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。病害では、輪紋病の発生がみられ、前回調査よりも拡大していた。虫害では、オオタバコガの産卵が継続的に確認されたほか、各齢期の幼虫や被害果がみられた（図1）。また、ハダニ類の寄生は全調査株でみられたほか、アザミウマ類の寄生は前回調査よりも減少していた。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、着果中であった（作期終了によりほ場を移動）。病害では、うどんこ病の発生が拡大していた。虫害では、ハモグリバエ類の寄生が目立ったほか（図2）、オンシツコナジラミの寄生がわずかにみられた。



図1 トマトに寄生するオオタバコガ（小諸市）



図2 トマトに寄生するハモグリバエ類（成虫）と加害痕から葉上に出た蛹（長野市）

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった（作期終了によりほ場を移動）。病害では、うどんこ病、べと病、褐斑病の発生がみられ、特にうどんこ病の病勢が拡大していた。虫害の発生はみられなかった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。病害では、べと病、褐斑病（図3）、灰色かび病の発生がみられたほか、ウイルス症状株がわずかにみられた（図4）。虫害では、アザミウマ類がみられたが、寄生株率は低かった。



図3 きゅうりの褐斑病（中野市）



図4 きゅうりのモザイク病によるウイルス症状（中野市）

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生花率は、前回調査よりも減少していた。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、結球始期であった。チョウ目害虫による食害が全調査株でみられたほか、アザミウマ類の寄生がみられたものの、前回調査より減少していた。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球始期であった。チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。病害では、黒斑病の発生がわずかにみられた（図5）。



図5 キャベツの黒斑病（南牧村）

軽井沢町の巡回ほ場は、結球期であった。ウワバ類、オオタバコガの寄生がみられ、チョウ目害虫による食害がやや目立った。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場は、結球始期であった。ウワバ類、オオタバコガの寄生がみられ、チョウ目害虫による食害がやや目立った。病害では、外葉に黒斑細菌病がわずかにみられた（図6）。



図6 キャベツの黒斑細菌病（長野市）

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、生育期（12葉期）であった。虫害では、アザミウマ類の寄生とチョウ目害虫による食害が少ないながらみられた。病害では、黒腐病の発生がわずかにみられた。

御代田町の巡回ほ場は、生育期（7葉期）であった。チョウ目害虫による食害が散見された。

病害の発生はみられなかった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、生育期（6葉期）であった。アブラムシ類有翅成虫の飛来着生とチョウ目害虫の食害が少なからずみられた。病害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、生育期（15葉期）であった。チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

小海町の巡回ほ場は、生育期（9葉期）であった。アブラムシ類有翅成虫（図7）の飛来着生がやや多かったほか、チョウ目害虫の食害がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、生育期（12葉期）であった。病害では、べと病（図8）、黒斑病（図9）のほか、ウイルス症状株がわずかにみられた。虫害では、アブラムシ類有翅成虫の飛来着生とチョウ目害虫の食害が散見された。



図7 はくさいに寄生するアブラムシ類（小海町）



図8 はくさいのべと病 葉の表面の病斑と裏面に形成された菌糸（南牧村）



図9 はくさいの黒斑病（南牧村）

7 レタス

巡回ほ場は、いずれも生育期で、上田市は10葉期、小諸市は12葉期、南牧村は9葉期、御代田町は8葉期であった。いずれのほ場でも外葉にすそ枯病の発生がみられ、上田市のほ場では、べと病の発生がわずかにみられた。虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市（露地栽培）、小布施町（雨よけ栽培）、飯山市（露地栽培）の巡回ほ場は、いずれも立茎繁茂期であった。いずれのほ場でも茎枯病の発生がみられ、前回調査よりも病勢は進展していた。虫害では、全ほ場でアザミウマ類の寄生がみられたが、寄生株率は前回調査よりも減少していた。そのほか、小諸市のほ場ではヨモギエダシャク（図10）などチョウ目害虫の寄生がわずかにみられ、飯山市のほ場ではハダニ類の寄生が多かった。



図10 アスパラガスに寄生するヨモギエダシャク（小諸市）

9 ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。病虫害の発生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 9月7日、11日、14日、15日、16日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。

2 きゅうり

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。前回に引き続き、花および葉にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、上位葉にワタヘリクロノメイガ（少発生）の寄生がみられた。高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は収穫中であった。花にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、葉にタバココナジラミ成虫および幼虫（中発生）の寄生がみられた（図11）。



図11 きゅうりのタバココナジラミ幼虫（高森町）

3 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、生育期（6～7葉期）であった。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、生育期（8～9葉期）であった。中心部にオオタバコガの寄生および食害がみられた（図12）。

茅野市の巡回ほ場は、結球期であった。病害虫の発生はみられなかった。



図12 キャベツのオオタバコガ（朝日村）

4 はくさい

朝日村の巡回ほ場は、結球期であった。病害虫の発生はみられなかった。

木祖村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害虫の発生はみられなかった。

5 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、収穫期であった。外葉に斑点細菌病（中発生）がみられ、連続降雨等の要因によりほ場全体に急拡大していた。また、軟腐病（少発生）による株の腐敗も一部にみられた。

朝日村の巡回ほ場は、生育初期であった（収穫終了によりほ場変更）。病害虫の発生はみられなかった。

6 アスパラガス

豊丘村の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、茎葉繁茂期であった。擬葉にアザミウマ類およびアブラムシ類（いずれも中発生）の寄生がみられたほか、擬葉および若茎のハダニ類（多発生）はさらに増加傾向であった。病害では、茎枯病（少発生）の発生が前回と同程度みられた。

飯島町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は茎葉繁茂期であった。前回同様、擬葉にアザミウマ類（少発生）がみられたほか、擬葉中心にハダニ類（多発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（中発生）が続けて発生しており、こちらも前回と同程度であった。

松川村の巡回ほ場（露地栽培）は、茎葉繁茂期であった。擬葉にアザミウマ類（多発生）の寄生がみられ、依然として高密度の状態が続いていた。

7 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉9.5～10.0葉であった。前回同様、葉に黒斑病（多発生）の発生がみられ、被害が拡大していた。虫害についても、葉にアザミウマ類およびネギハモグリバエ幼虫（いずれも多発生）の寄生がみられ、密度が増加していた。

山形村の巡回ほ場は、本葉8.0～9.0葉であった。前回同様、葉にアザミウマ類（多発生）およびネギハモグリバエ幼虫（少発生）の寄生がみられた。病害では、黒斑病（多発生）の発生が前回調査よりも増加していた。

8 ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。病害虫の発生はみられなかった。

9 きく

富士見町の巡回ほ場は、着蕾期（草丈約88cm）であった。前回同様、上～中位葉にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたものの、防除の実施により被害は縮小していた。